

みんなで、まちだのいいこと、ふくらまそう

『まちだ自慢』推進計画



市では、「市民が愛着を持って住み続けたいまち」「魅力にあふれ何度でも訪れたいまち」を目指して、2012年度に「まちだシティプロモーション基本方針」を策定しました。

これは、市の魅力を明確にし、効果的・戦略的に情報を発信することで、町田を訪れる方を増やし、市内への定住につなげていくことを目的としたものです。

このたび、方針を基に、2014年度から3年間の具体的な取り組みを示した「『まちだ自慢』推進計画」を策定しました。

市民と行政が協働で、未来づくりプランの進捗により新たに生まれる魅力や、既存の地域資源を市内・市外に戦略的・継続的にアピールするための役割を明確化し、オール町田での意思統一を図り、「住みたい」、「訪れたい」、「活動したい」と思われるように、都市の魅力を高めていきます。

また、当事業の推進にあたり、市民、事業者、行政などが一体となり、市の魅力を市内外に向け戦略的・効果的に情報発信すべくロゴマークを「いいことふくらむまちだ」に決定しました。

まちだの「ひと×まち」のエネルギーが成長して、未来への可能性・期待感がどんどんふくらんでいく様子、そしてまちだ市民の満足や期待感がふくらんでいく様子を表しています。

このロゴマークが表現するように、まちだでいいことがふくらみ、将来にわたり市内、市外を問わず多くの方々から「住みたい」、「訪れたい」、「活動したい」と思っただけのようなまちとなるよう、市民のみなさん、各種団体、事業者と協働して、多くの人々や企業から選ばれ続ける、魅力ある都市を築いていきましょう。

町田市長 石阪丈一



みんなで、まちだのいいこと、ふくらまそう！

『『まちだ自慢』推進計画』とは 4

『まちだ自慢』の目標設定・期待される効果 5

基本方針をベースにした 6
3つの推進戦略と活動計画

【推進戦略ごとの活動計画】

推進戦略 1 市民が主役になる仕組みをつくる 8

推進戦略 2 情報発信・魅力創造を強化する 9

推進戦略 3 話題性あるイベントを展開する 15

活動スケジュール 16

【資料編】

資料 1 2013年度 市民参加ワールドカフェ 17

資料 2 ロゴマークの作成と使用について 18

資料 3 2013年度 推進委員会・庁内検討会メンバー 19



「『まちだ自慢』推進計画」とは

『まちだ自慢』とは、市民と行政が協力しながら、町田市の魅力を、市内・市外に戦略的・継続的にアピールする活動です。

「『まちだ自慢』推進計画」は、2012年度に策定した「まちだシティプロモーション基本方針」に基づいた、

2014年度～2016年度の具体的な活動計画です。この計画を市民・行政が共有し、実行することで、

市民が主体的にまちだの魅力を発見・再認識し、積極的に情報発信すること、市外の人がまちだへの関心を持ち、来訪することを目指します。

「『まちだ自慢』推進計画」の策定にあたっては、町田市内の各種団体、事業者、有識者などのみなさんによる

「まちだシティプロモーション推進委員会」(P.19参照)を組織し、検討していただきました。

また、「市民参加ワールドカフェ※」を開催し、市民の方からいただいたご意見を参考にしました。

まちだシティプロモーション基本方針

「まちだシティプロモーション 推進委員会」による検討



行政各部横断による検討



市民の方からの意見収集



(市民参加ワールドカフェ※開催)



上／まちだシティプロモーション推進本部
下／まちだシティプロモーション作業部会

『まちだ自慢』推進計画

※ワールドカフェ

米国で1995年位に生まれた新しい会議の方法。参加者が少人数に分かれたテーブルで自由に対話を行い、テーマごとに他のテーブルとメンバーを交代しながら話し合いを発展させていく。ビジネス、まちづくり、教育など様々な分野で活用されている。

『まちだ自慢』の目標設定・期待される効果

人口減少社会において、町田市は、年代や属性のバランスがとれた人口を維持し、増加させていく必要があります。つまり、市民の「住み続けたい」という意欲を向上するとともに、交流人口を増やし、長期的には転入を促すことが求められます。人口を維持・増加することで、行政サービスのレベルを維持し、賑わいのある、誰にでも住みやすいまちの実現が可能になります。『まちだ自慢』推進計画の最終目標は、「市民が『誇り』を持ち、市外の人から『憧れる』まち」、「多くの人に『選ばれる』まち」の実現です。

“市民の「誇り」を生み、市外の人からの「憧れ」を醸成する”

最終的な目標達成のため、市民に対しては、町田市民であることを「誇り」に思い、まちだに「住み続けたい」という意欲を醸成していきます。また、市外の人に対しては、まちだへの「憧れ」を生み、まちだに「住んでみたい」という意欲を高めます。しかし、市民の「誇り」も、市外の人からの「憧れ」も、すぐに向上するわけではなく、活動の積み重ねにより、徐々に育まれるものです。そこで、3つの期間に分けた目標を設定し、活動を継続的に推進します。

短期目標

2014年度～2016年度

中期目標

長期目標

》市民

魅力の発見・再認識
新しい魅力の創出
市民発の情報発信強化

市民自身がまちだの魅力を発見し、新たな魅力を作り、情報発信をして『まちだ自慢』の機運を高めます。

まちだへの愛着向上
おもてなし精神醸成

魅力の発見、創出、発信を続けることで、まちだへの愛着が湧きます。また、来訪者への「おもてなし」の精神を育みます。

市民としての誇り・
住み続けたい意欲向上

まちだへの愛着を持続けることで、市民としての誇りや、「住み続けたい」という意欲が向上します。

》市外の人

まちだへの関心喚起
まちだへの来訪促進

まちだの多様な魅力に興味・関心を持ってもらうことから始めます。興味を引き、関心を高めることで、来訪意欲につながります。

繰り返し来訪促進
まちだファン化

まちだに繰り返し来てもらい、まちだを楽しんでもらうことで、「まちだファン」を作っていきます。

まちだへの憧れ醸成
定住促進

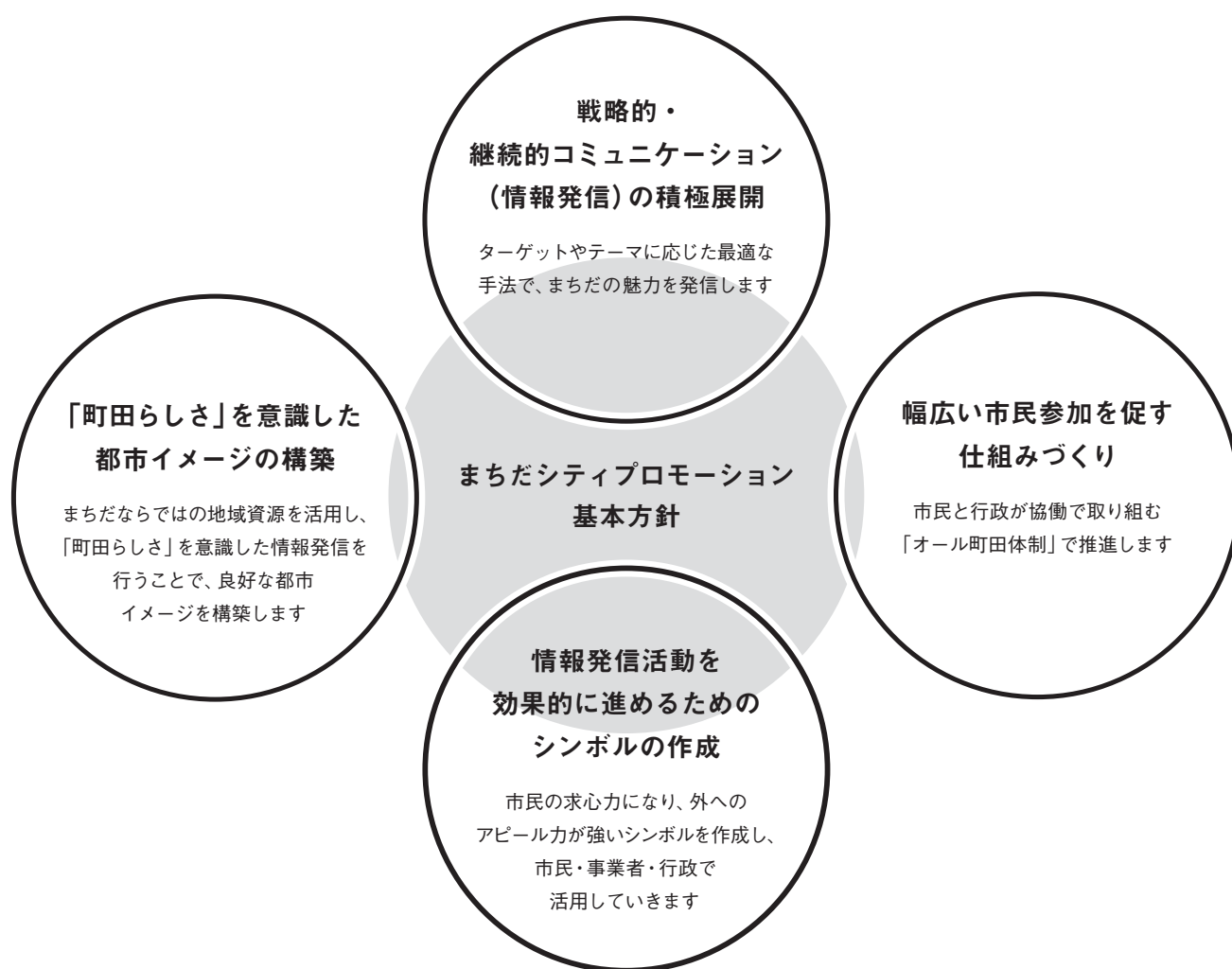
まちだへの憧れを持つことで、訪問する場所から「住みたい場所」として選ばれるようになります。

『まちだ自慢』推進計画は、短期目標の達成における2014～2016年度の活動計画です。

中期・長期目標の達成に向けた推進計画は、効果測定のための調査結果や活動状況などを踏まえ、2016年度に策定します。

基本方針をベースにした 3つの推進戦略と活動計画

市民の「誇り」を生み、市外の人からの「憧れ」を獲得するために、
「まちだシティプロモーション基本方針」で定めた4つの基本方針をベースに、
具体的な活動の方向性として3つの推進戦略と活動計画を策定しました。
この推進戦略に基づいた『まちだ自慢』活動を継続することで、多くの人に「選ばれるまち」になります。



相互に連携する基本方針をベースにした「推進戦略」に基づき、具体的な活動を継続的に推進していきます



『まちだ自慢』推進計画		
推進戦略 1	推進戦略 2	推進戦略 3
市民が主役になる 仕組みをつくる	情報発信・魅力創造を 強化する	話題性ある イベントを展開する

推進戦略 1

市民が主役になる 仕組みをつくる

活動計画

[1-1]

市民サポーターの 組織化

『まちだ自慢』の担い手になり、まちだの新たな魅力創出や、市内・市外への情報発信をします。

[1-2]

まちだ自慢 ミーティングの開催

対話を通じ、魅力創出や情報発信の機運を高めるとともに、まちだの魅力をふくらませるアイデアが生まれることを期待します。

推進戦略 2

情報発信・魅力創造を強化する

活動計画

[2-1]

『まちだ自慢』オフィシャル ウェブサイトの開設

地域の魅力を発信するとともに、『まちだ自慢』の情報プラットフォームとして、個別の活動を紹介していきます。市民発の『まちだ自慢』も紹介します。

[2-2]

ロゴマークの 活用促進

『まちだ自慢』を効果的に推進するためのシンボルとして2013年度に作成したロゴマークを、市民・事業者・関係団体・行政が一体となって活用します。

[2-3]

推進委員会の 開催

市内の関係団体や有識者との定期的な情報共有を行い、新たな魅力の創出や、効果的な情報発信を行います。

[2-4]

まちだの魅力の 戦略的情報発信

関係団体と行政が連携し、まちだの持つ多様な地域資源を戦略的に情報発信します。市民の方にはまちだの魅力の理解、体験を促し、市民発の情報発信強化を狙います。

推進戦略 3

話題性ある イベントを展開する

活動計画

[3-1]

市民協働型の 魅力発信イベントの開催

市民や市外の人が、まちだの魅力に関心を持つきっかけとなるイベントを展開し、市民の方が積極的に参加する協働型の取り組みを目指します。

[3-2]

市制 60 周年 記念イベントの開催

町田市が一体となり、祭・イベント・観光地など、複数の地域資源を結び付けた市民参加型イベントを開催します。市民自身が楽しみ、市外からの来訪を促進します。

継続的な活動の結果



「市民が『誇り』を持ち、
市外の人が『憧れる』まち」、
「多くの人に『選ばれる』まち」
を実現



市民が主役になる仕組みをつくる

[1-1]

市民サポーターの組織化

『まちだ自慢』活動推進のためには、市民※のみなさんが、それぞれの立場から、それぞれの方法で、まちだの魅力を新たに作り出し、積極的な情報発信をしていただくことが欠かせません。

『まちだ自慢』活動の原動力となる組織として、『まちだ自慢』サポーター（仮称）を組織化します。

活動内容案

- ① まちだの魅力の新たな発見・再認識
- ② まちだの魅力の積極的な情報発信
- ③ 市内の各種イベントへの積極的な参加
- ④ まちだ自慢ミーティングへの参加
- ⑤ まちだの魅力発信に向けた話題性の高いイベントや、2016年に計画する「市制60周年記念イベント」に関するアイデアの提案

※市民 『まちだ自慢』推進計画における「市民」とは、市内在住者に加え、市外からの通勤・通学者、町田市に縁がある市外居住者（以前住んでいた方など）、町田市が好きな方など、広い範囲で町田市に関わる方を指しています。

[1-2]

まちだ自慢ミーティングの開催

『まちだ自慢』活動をテーマとした市民参加ミーティングを開催し、より一層魅力的なまちになるためのアイデアや、『まちだ自慢』活動案などを話し合います。



情報発信・魅力創造を強化する

[2-1]

『まちだ自慢』 オフィシャルウェブサイトの開設

観光、グルメ、文化、スポーツ、暮らし、農業・工業など、様々なジャンルのまちだの魅力を発信するとともに、市民・行政が一体となった『まちだ自慢』の活動を紹介するウェブサイトを開設します。
市民の方が発見・再認識したまちだの魅力の、市民発の情報発信や、活動を通じて新たに生まれた地域資源の紹介を行います。

[2-2]

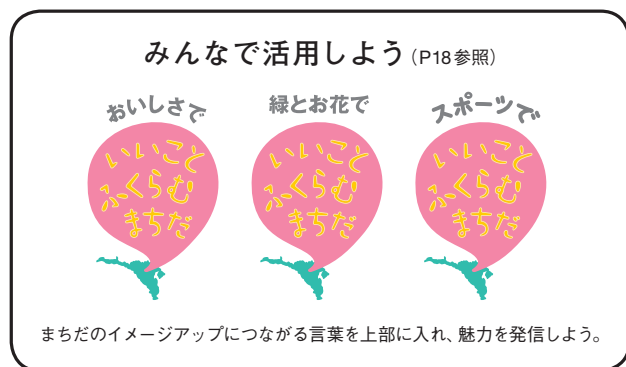
ロゴマークの活用促進

『まちだ自慢』のシンボルとして、市民の方や事業者などが基本的に誰でも活用できるロゴマーク【通称：『まちだ自慢』ロゴマーク】を2013年度に作成しました。
市や関係団体で横断的に活用していくとともに、幅広い市民や事業者などの活用に向け、認知向上や利用促進に向けた施策を展開します。



ロゴマークコンセプト

まちだの「ひと×まち」のエネルギーが成長して、未来への可能性・期待感がどんどんふくらんでいく様子、そしてまちだ市民の満足度や期待感がふくらんでいく様子を表しています。



ロゴマークの展開

① 市役所、関係団体でのロゴマークの積極使用

観光や物産関連をはじめ、文化、スポーツ、教育、子育てなど、様々なジャンルの制作物（ポスターやちらし、のぼりなど）に、ロゴマークを積極的に使用します。

② 市民のロゴマークの認知向上・使用促進に向けた取り組み

市民や事業者などによるロゴマークの活用を表彰したり、ユニークな活用方法を募るコンテストの開催などを通じ、ロゴマークの認知・関心・理解を高めます。

[2-3]

推進委員会の開催

『まちだ自慢』活動に関する情報共有、意見交換、検討を目的に、市内の各種団体や有識者をメンバーとする推進委員会を開催します。これを通じて、各種団体が横断的に連携し、より一層の魅力創出、情報発信を行います。

推進委員会の主な役割

- ・『まちだ自慢』推進計画の進捗管理
- ・『まちだ自慢』活動の情報共有・意見交換
- ・『まちだ自慢』活動テーマの検討

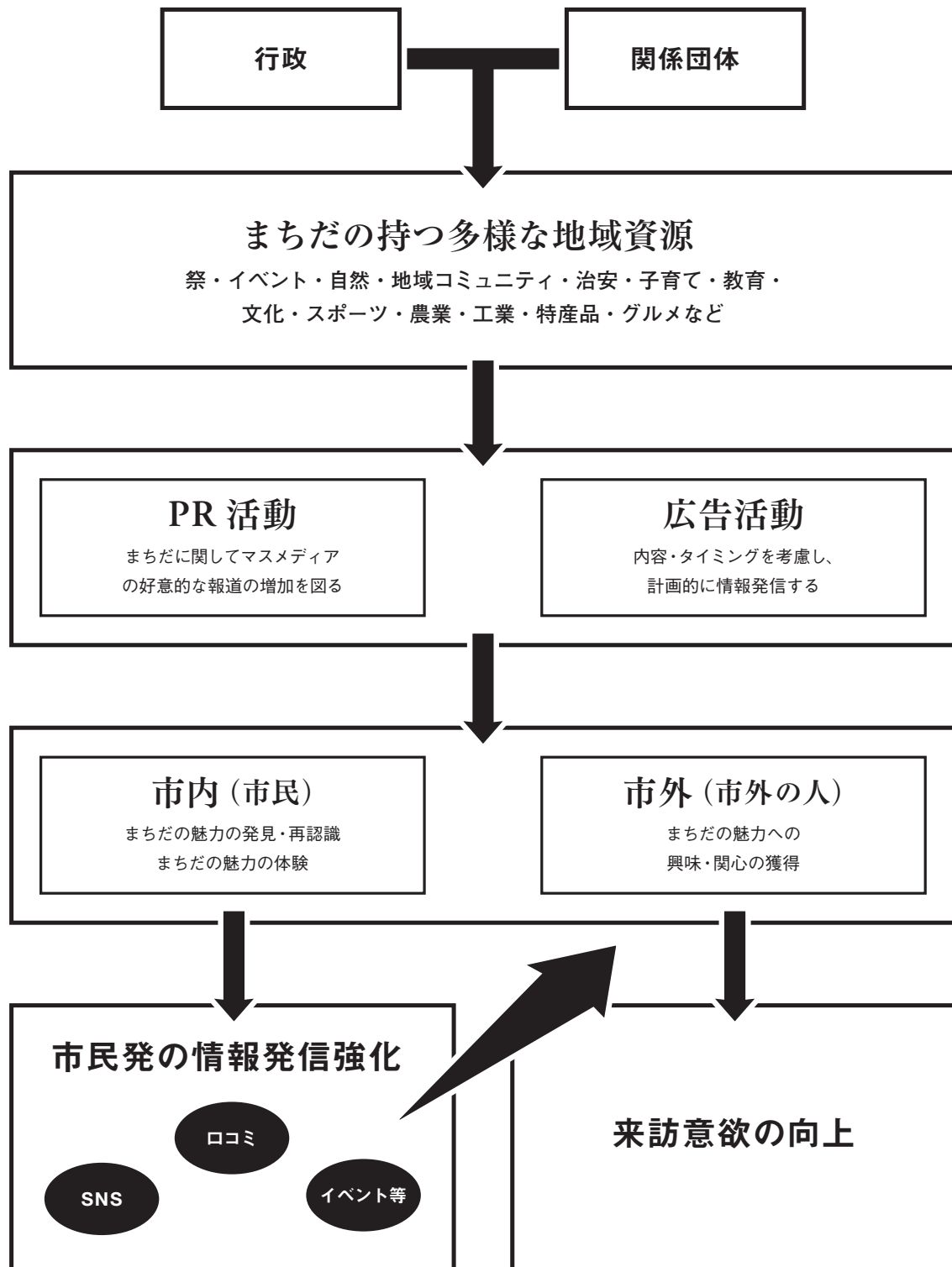
[2-4]

まちだの魅力の戦略的情報発信

関係団体と行政が連携し、まちだの持つ多様な地域資源を戦略的に情報発信します。

市民の方にはまちだの魅力の理解、体験を促し、市民発の情報発信強化を狙います。

また、市外の人に対し、まちだへの興味・関心を獲得し、来訪意欲を向上させます。



まちだへの来訪促進

文化・芸術・レジャーなどの施設、公園や緑地、散策スポット、祭や各種イベント、四季の花々などの情報を、効果的に発信していくことで、市民の方、及び市外の方の来訪や体験を促します。

展開案

祭やイベントへの来訪者を増やす

PR活動や、広告活動、まちメディアの活用、広報ツールの制作・配布などにより、まちだの主要な祭やイベント、まちだならではの花の名所や開花情報などを総合的に発信します。

町田の“グリーン・スポット”の魅力をトータルに訴求する

公園、緑地、農地、散策スポットなど、まちだの花と緑の魅力をトータルに紹介します。

薬師池公園地域への訪問者を増やす

薬師池公園地域魅力向上計画により生まれる新たな魅力を、市内・市外に発信します。



誰にでもくらしやすい まちとしての認知向上

居住地を選択する際の大きな要因である、教育や子育て環境、高齢者施策、
地域コミュニティの状況や市民活動の活発さ、くらしの安心・安全への取り組みなど、
まちだの住みやすさの現状や、将来計画を発信します。

展開案

市民自治が活発で 地域の絆が強いまちであることを訴求

地域コミュニティの強さ（自治会等の組織化率と活動）、
活発な市民運動と良好な行政との連携（まちカフェ）、地域における自治の取り組み、
市関連イベントへの積極的な市民参加（二十祭まちだ）、商店会の見守りなどに関して、
広報ツールや『まちだ自慢』オフィシャルウェブサイト、PR活動、広告活動などを通じて情報発信します。

「治安が良いまち」というイメージの浸透

町田市は東京近郊都市の中でも犯罪は多くないこと、落書き消去活動など市民主導の防犯活動が活発であることなど、
「町田市安全安心まちづくり推進計画」の活動状況を、PR活動や広告活動などを通じて広く伝えます。

子育て環境、教育環境が 良好であることの理解を促進

社会的に関心が高い子育て・教育環境について、20年間期間限定認可保育所事業、
義務教育での先進的かつ独自の取り組み、教育現場における市民参加、産業（企業）との活発な連携など、
マスメディアへの情報提供や、『まちだ自慢』オフィシャルウェブサイト、広報ツールなどで紹介します。



文化・芸術、スポーツに親しめる まちのイメージ浸透

文化・芸術とスポーツを切り口に、まちだの都市イメージを高めます。

情報発信においては、町田市に居住している、あるいはゆかりのあるアーティストやアスリートの協力を働きかけ、市内・市外に対してアピールしていきます。

展開案

文化・芸術が盛んな都市という イメージの浸透を図る

多くのプロのアーティストが育ち、また、現在も多く住んでいることや、国際版画美術館、町田市民文学館ことばらんど、あとリエ・う、などユニークな文化・芸術施設が存在していることを発信します。

【案】…町田アートマップの作成・配布、町田在住のアーティスト発の情報発信の仕組み構築など

スポーツが盛んな都市という イメージの浸透を図る

FC町田ゼルビアやASVベスカドーラ町田などトップスポーツの存在、町田在住あるいは関係の深いスポーツ選手が多いこと、全国的に有名な高等学校・大学の部活動などを材料に、スポーツが盛んで健康的な都市イメージを浸透します。

【案】…トップスポーツ活用、アスリート発の情報発信の仕組みづくり、「スポまち」（新聞・HP）の活用など



まちだの多彩な魅力を訴求

居住都市、商業集積都市という側面に加え、農業研修場、町田新産業創造センター、まちだテクノパークなどの特徴的な施設、複数の大学の存在、特産品や独自グルメなど、まちだの多彩な魅力を広くアピールしていきます。

展開案

農業・工業に関する情報発信の強化

新規就農者の受け入れや、地元産野菜の生産・販売などの農業分野、技術を生かした新製品や特産物などの工業分野について、PR活動や広告活動などを通じて情報発信します。

特徴的な特産品・グルメの紹介

来訪者増加への影響力が大きい、特徴的な特産品やグルメに関して情報発信します。



話題性あるイベントを展開する

市民自らが『まちだ自慢』活動の担い手としての意識を持ってもらうため、イベントの企画等から関わってもらいます。

[3-1]

市民協働型の 魅力発信イベントの開催

市民・市外の人に、
まちだの魅力に関心をもってもらうきっかけとなり、
また、まちだへの愛着を醸成するイベントを実施します。
市民の方に積極的に参加してもらえるイベントや、
市民の方のアイデアから生まれるイベントなど、
市民協働型の取り組みを目指します。

イベントアイデア

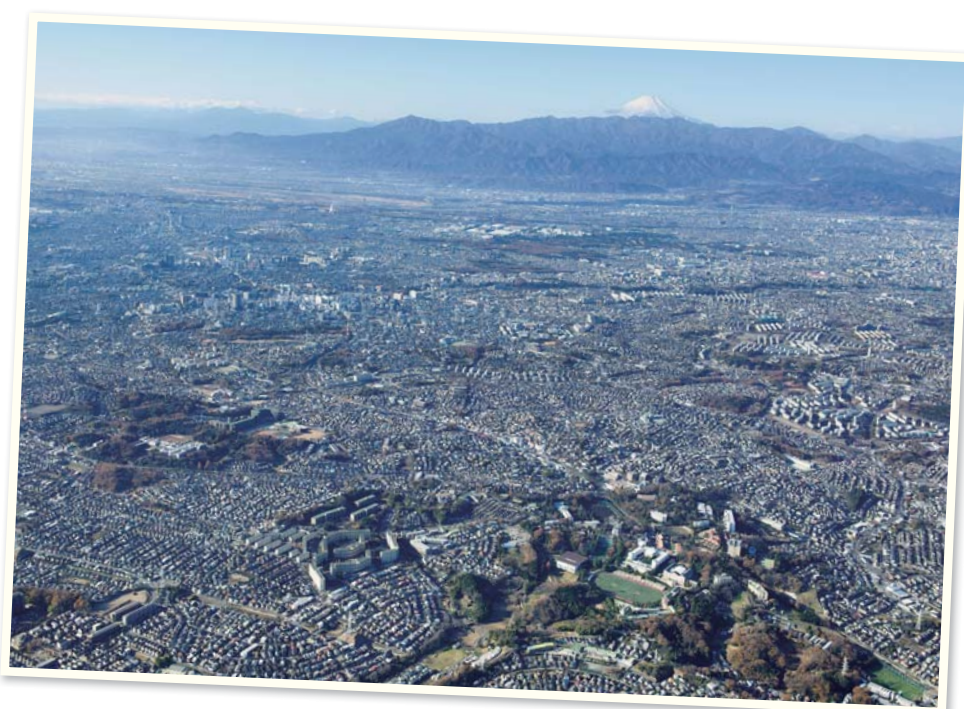
『まちだ自慢』プロモーションビデオコンテスト
まちだの魅力を表現した映像作品を市民の方から募集

『まちだ自慢』パーソン・オブ・ザ・イヤー
まちだの魅力発信に貢献している市民の方を表彰

[3-2]

市制60周年記念プレイベントの開催

『まちだ自慢』活動の核となるイベントとして、
町田市全域を会場とした大規模イベント「まちだエキスポ(仮称)」を開催します(2016年秋予定)。
これは、2018年に迎える市制60周年を前にした、祭やイベント、グルメなど、
既存の地域資源を活用・編集した市民参加型イベントです。



活動スケジュール

短期目標の達成に向けた2014年度～2016年度の活動は、以下のスケジュールを予定しています。

『まちだ自慢』活動に関連した主な出来事

2018年 町田市制 60 周年
2019年 ラグビーワールドカップ開催
2020年 東京オリンピック開催



2013年度 市民参加ワールドカフェ

【開催概要】

日時：2014年1月19日（日） 午後1時30分～4時30分

場所：市庁舎 3階 会議室 3-2、3-3

参加者：計28名（まちだサポーターズ、桜美林大学学生）

内容：「町田市の魅力を、もっともっと伝えよう」を全体テーマとして、
町田の魅力や、魅力を広く知らせる方法などについて意見交換しました。

【参加者の感想】

（事後アンケートより抜粋）

私たちが変わらなければ、
施設を作っても
何も変わらないと思った。

各人の意見により、
新たな発見ができた。

（町田の魅力を市内外に
伝えるために）まず、
自分たちが、
町田について知る。

このような場（ワールドカフェ）が
何度か設けられると良い。



町田は奥が深い。
住民だが、まだまだ
知らないことが沢山ある。

自分の知らない
新たな町田の魅力を
認識した。

折角「サポーターズ」があるので、
動ける場所を
これからも作って欲しい。

住んでいる人、
通ってくる人が口コミを通じ、
宣伝することが重要だと思う。



参加者からは、「ワールドカフェ」での対話に対して好意的な意見が多く、『まちだ自慢』の担い手としての高い意識が感じられました。『まちだ自慢』推進計画に、「市民サポーターの組織化」、「まちだ自慢ミーティング※の開催」を掲げることで、市民・行政が一体となった、「オール町田」による『まちだ自慢』を推進していきます。

※2014年度以降、ワールドカフェは「まちだ自慢ミーティング」と名称を変え、継続的に実施します。

ロゴマークの作成と使用について

ロゴマークの作成

町田の魅力を市内外に発信するときのシンボルとして、
ポスターやインターネットなど幅広い情報発信ツールに容易に使い、
また、市民のみなさんはじめ誰でも気軽に使用できる町田市ロゴマーク
【通称：『まちだ自慢』ロゴマーク】（以下、ロゴマーク）を作成しました。
庁内、及び、推進委員会の検討を経た3案について、
2013年10月15日～10月31日に市民投票を行い、
右のロゴマークに決定しました。
(投票総数 30,160票)



ロゴマーク 使用の原則

ロゴマーク作成の趣旨に反さない限り、
原則として誰でも自由に
無料でお使いいただけます。

使用方法

ロゴマークの使用方法等について、
以下を定めました。

- ・町田市ロゴマーク使用の手引
- ・町田市ロゴマーク デザインマニュアル

使用手続き

ロゴマークの使用に関しては、営利を目的とした使用でない限り、
原則として特別の手続きは不要です。

画像データ (JPEG、PNG、Illustrator)、
「町田市ロゴマーク使用の手引」、
「町田市ロゴマーク デザインマニュアル」は、
以下からダウンロードできます。

http://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/city_promotion

※ロゴマークについてのお問い合わせは、
下記までお願いします。

町田市政策経営部広報課

TEL: 042-724-2101

〒194-8520 東京都町田市森野2-2-22

みんなで ロゴマークを使おう

【使用例】

ちらし、看板、ポスター、ホームページ
包装紙など



2013年度 推進委員会・ 庁内検討会メンバー

●まちだシティプロモーション推進委員会

委員長	中山 市太郎	桜美林大学准教授
委員	城 孝明	町田市商工会議所 総務部会員サービス課 課長
委員	富岡 秀行	町田市商店会連合会 副会長
委員	宮本 聖士	町内会・自治会連合会 副会長
委員	徳尾 和彦	町田市観光コンベンション協会 事務局長
委員	金子 忠夫	町田市農業協同組合 常務
委員	前島 正光	NPO法人顧問建築家機構 代表理事
委員	榑原 高	町田スポーツ振興センター 代表理事



●まちだシティプロモーション推進本部

委員長	本多 浩子	政策経営部広報担当部長
副委員長	高橋 豊	政策経営部長
委員	大谷 光雄	市民部市民協働推進担当部長
委員	馬場 昭乃	文化スポーツ振興部長
委員	笠原 裕至	経済観光部長
委員	渋谷 晴久	都市づくり部長



●まちだシティプロモーション作業部会

-	遠藤 聡人	政策経営部 企画政策課
-	二方 光輝	総務部 総務課
-	岸 美里	市民部 市民協働推進課
-	海老谷 成臣	市民部 防災安全課
-	小林 啓子	文化スポーツ振興部 文化振興課
-	鬼塚 淳子	文化スポーツ振興部 文化振興課
-	須崎 努	文化スポーツ振興部 スポーツ振興課
-	犬塚 晴征	子ども生活部 子ども総務課
-	熊澤 幸平	経済観光部 産業観光課
-	原田 恵	経済観光部 農業振興課
-	新 聡	都市づくり部 公園緑地課
-	高橋 由希子	学校教育部 教育総務課



みんなで、まちだのいいこと、ふくらまそう！

『まちだ自慢』推進計画

2014年3月発行

発行者：町田市 〒194-8520 東京都町田市森野2-2-22 TEL：042-722-3111

編集・印刷：株式会社オズマビジュアル 刊行物番号：13-115

この冊子は再生紙を使用しています。